



この壺は満杯か？



ある大学教授が学生に対して行った「この壺は満杯か？」という有名な話があります。それは、次のような話です。

「クイズの時間だ」教授はそう言って、大きな壺を取り出し教壇に置いた。その壺に、彼は一つ一つ岩を詰めた。壺がいっぱいになるまで岩を詰めて、彼は学生に聞いた。「この壺は満杯か？」、教室中の学生が「はい」と答えた。「本当に？」、そう言いながら教授は、教壇の下からバケツいっぱい砂利を取り出した。砂利を壺の中に流し込み、壺を振りながら、岩と岩の間を砂利で埋めていく。そしてもう一度聞いた。「この壺は満杯か？」一人の生徒が「たぶん違うだろう」と答えた。教授は「そうだ」と笑い、今度は教壇の下から砂の入ったバケツを取り出した。それを岩と砂利の隙間に流し込んだ後、三度目の質問を投げかけた。「この壺は満杯か？」、学生は声を揃えて、「いや」と答えた。教授は水差しを取り出し、壺の縁までなみなみと水を注いだ

彼は学生に最後の質問を投げかける。「僕が何を言いたいのかわかるだろうか」、一人の学生が手を挙げた。「どんなにスケジュールが厳しいときでも、最大限の努力をすれば、いつでも予定を詰め込むことは可能だということです」

「それは違う」と教授は言った。「重要なポイントはそこではないんだよ。この例が私たちに示してくれる真実は、大きな岩を先に入れないかぎり、それが入る余地は、その後二度とないということなんだ。」君たちの人生にとって「大きな岩」とは何だろう、と教授は話しはじめる。それは、仕事であったり、志であったり、愛する人であったり、家庭であったり、自分の夢であったり……。ここでいう「大きな岩」とは、君たちにとって一番大事なものだ。それを最初に壺の中に入れなさい。さもないと、君たちはそれを永遠に失うことになる。もし君たちが小さな砂利や砂、水など、自分にとって重要性の低いものから自分の壺を満たしていけば、君たちの人生は重要でない「何か」に満たされたものになるだろう。そして大きな岩、つまり自分にとって一番大事なものに割く時間を失い、その結果それ自体を失うだろう。

さて、生徒の皆さんにとって「大きな岩」は何ですか。皆さんは、自分の人生（大きな壺）を冷静に見つめて、何を「大きな岩」として入れますか。皆さんには自分にとって大事なものを壺（人生）に入れて、充実した学校生活を送ってほしいと思います。ちなみに、私にとって「大きな岩」は、信頼できる友達であったり、知識であったり、家族であったり、仕事であったりします。